Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：国際収支(2011年11月)　　発表日2012年1月12日(木)

～2ヶ月連続の貿易赤字。経常収支は低水準の黒字が続く～

第一生命経済研究所　経済調査部
担当　エコノミスト　星野　卓也
ＴＥＬ：03-5221-4526

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			所得収支
					貿易収支	サービス収支	
10	7月	17,187	15,593	7,403	8,152	▲ 749	9,126
	8月	11,429	12,309	3,943	5,045	▲ 1,102	9,586
	9月	20,175	16,145	5,676	6,470	▲ 794	11,401
	10月	14,949	15,127	4,722	6,049	▲ 1,327	11,393
	11月	9,554	12,695	3,217	4,772	▲ 1,555	10,308
	12月	11,979	15,386	6,255	6,960	▲ 705	10,042
11	1月	5,472	11,787	3,598	3,924	▲ 326	9,272
	2月	17,008	12,748	3,752	4,873	▲ 1,121	11,494
	3月	17,386	8,062	▲ 1,517	300	▲ 1,817	10,108
	4月	4,124	5,759	▲ 6,987	▲ 5,556	▲ 1,431	13,487
	5月	5,859	3,857	▲ 8,089	▲ 7,025	▲ 1,064	12,890
	6月	5,389	9,372	▲ 798	92	▲ 890	11,287
	7月	10,537	8,245	▲ 2,079	▲ 225	▲ 1,855	11,181
	8月	4,363	6,726	▲ 3,874	▲ 1,943	▲ 1,931	11,355
	9月	16,107	12,105	▲ 327	910	▲ 1,237	13,283
	10月	5,624	5,186	▲ 6,727	▲ 5,269	▲ 1,458	12,777
	11月	1,385	4,804	▲ 5,711	▲ 3,753	▲ 1,958	11,803

(出所)財務省「国際収支統計」

○ 11月の経常収支(原数値)は前年比▲85.5%の1,385億円の黒字

11月の経常収支(原数値)は1,385億円の黒字と、コンセンサス(2,468億円、レンジ：1,368億円～4,565億円)を下回る結果となった。前年比でみると▲85.5%と、９ヶ月連続で経常黒字額は前年を下回った。個別に見ると、貿易収支は世界経済の減速を受けた輸出の伸び悩みや、原粗油や液化天然ガス輸入の増加により、5,851億円の赤字と２ヶ月連続の赤字となった。それに対して、再投資収益や配当金の受取が増加したことにより、所得収支は前年比＋13.0%の9,340億円の黒字と前年を上回る黒字が続いた。所得収支が安定的に黒字を計上し、貿易収支の悪化を下支えることで経常黒字を維持しているという構図に変化はない。

○ 季調済経常収支は10月から黒字幅縮小。貿易収支は２ヶ月連続の赤字

11月の経常収支の季節調整値(以下、すべて季節調整値)は、4,804億円の黒字(10月：5,186億円の黒字)と黒字幅が若干縮小した。内訳をみると、貿易収支は輸入の減少が輸出の減少を上回ったことから、3,753億円の赤字(10月：5,269億円の赤字)と赤字幅が縮小した。輸出は前月比▲0.9%と小幅減少となっており、このところは足踏み状態が続いている。輸出数量(通関ベース)を地域別にみると、ＥＵ向け輸出の低迷が目立つ。今後も債務問題の影響から欧州経済は低迷が続く可能性が高く、ＥＵ向け輸出が足を引っ張ることとなろう。輸入は前月比▲3.4%と11月は減少したものの、高い水準での動きが続いている。輸出が海外経済の減速や円高を背景に低迷する中、輸入は資源価格の高止まりや液化天然ガス輸入の増加により高水準での推移が続いており、貿易収支は２ヶ月連続の赤字となった。

所得収支は、直接投資収益・証券投資収益がともに黒字幅を縮小したことから、１兆1,803億円の黒字(10月：１兆2,777億円の黒字)と黒字幅が縮小した。所得収支は２ヶ月連続での前月比マイナスとなったが、均し

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

てみれば海外子会社からの受取が増加していることから直接投資収益が緩やかな増勢を保っているほか、証券投資収益も底堅さを保っており、全体としても堅調な推移が続いていると判断されよう。

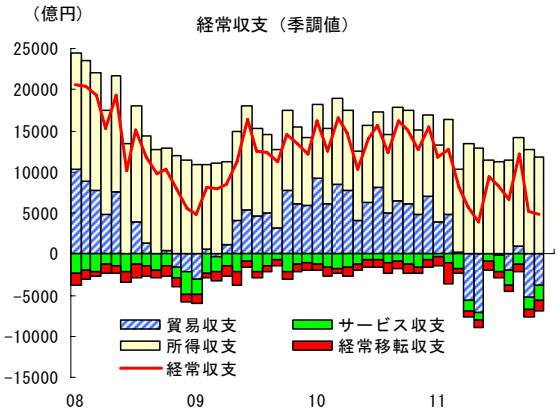
サービス収支は、訪日旅行客数の回復を背景とした受取増により旅行収支の赤字幅が縮小したものの、輸送収支の赤字幅が拡大したほか、その他サービス収支が赤字に転化したことから、1,958億円の赤字(10月：1,458億円の赤字)と10月から赤字幅は拡大した。

○ 貿易収支の弱さから経常収支は低水準の黒字が続く見込み

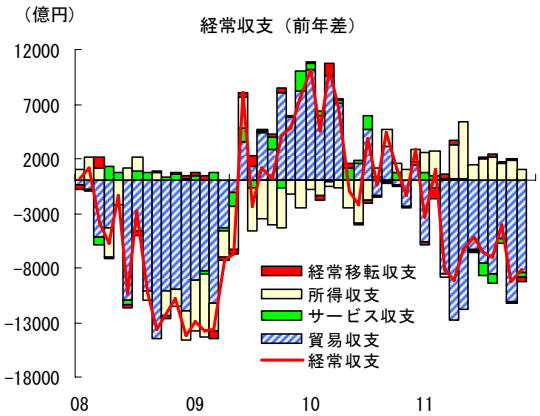
総じて11月の経常収支は、貿易収支が輸入の減少から赤字幅を縮小したものの、サービス収支は赤字幅が拡大、所得収支は黒字幅が縮小したことにより、黒字幅が小幅縮小する形となった。経常収支は震災後、貿易収支の改善から一旦は持ち直しの動きが見られたものの、足元では貿易収支が再び悪化したことにより低迷している。

今後についても、経常収支は貿易収支の弱さを主因に低調に推移するものと見込んでいる。足元の貿易赤字は、円高を背景とした輸出の伸び悩みに加え、資源価格の高止まりや火力発電用ＬＮＧ需要の増大による輸入増が大きな原因となっており、いずれも直ちに解消するとは見込み難いものである。今後も輸入は輸出に対して高い水準での推移が続くことが見込まれ、貿易収支は赤字ないしは若干の黒字が続く弱い動きとなる公算が大きいと考えている。

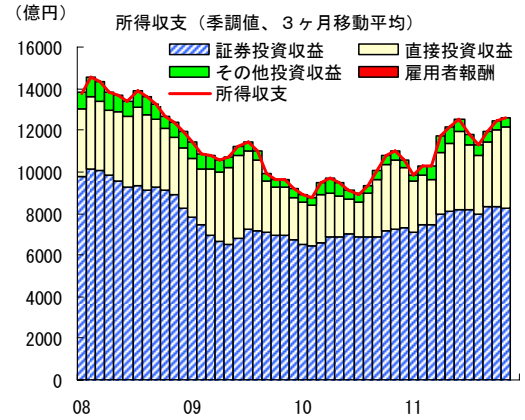
一方で、足元で経常黒字の下支えとなっている所得収支に関しては、過去に積み上げた対外純資産を背景に引き続き底堅い推移が予想される。足元の米国長期金利が２％近辺で低調に推移していることが、徐々に債券利子受取の下押し要因として顕在化する可能性があるものの、当面は巨額の所得収支黒字によって経常収支は低水準ながら黒字が維持されることとなろう。



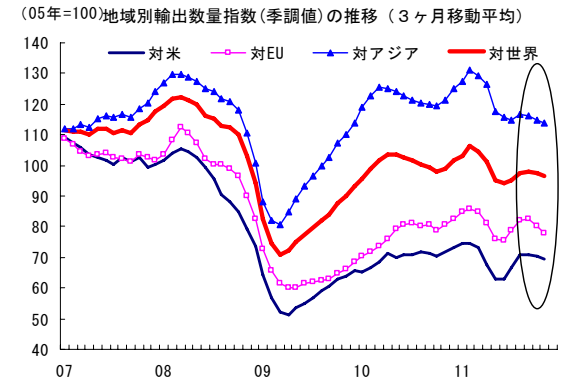
（出所）財務省「国際収支統計」



（出所）財務省「国際収支統計」



（出所）財務省「国際収支統計」



※季節調整は「対世界」は財務省、その他は第一生命経済研究所。
（出所）財務省「貿易統計」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。